

マスターズ・スコープオンオープン優勝・川添奨太

「今回ウレタンボールを持ってきたのが正解。オイルの長さからウレタンボールを使う展開にならないと思っていたのですが、まさかのウレタン様々でした」と安どの表情だった



予選・7Gトータル1位通過は、川添奨太（J PBA）。ダントツの229アベで賞録を見せた。準決勝からゼロスタート。予選を通過すれば、どの選手にもチャンスがある。



川添奨太がリージョナル通算2勝目!!

「川添プロは小さいころから憧れの存在だった」と話しながらも最後まで王者を苦しめる見事なボウリングだった

**RESULTS**

【男子】

① 谷合 貴志	238
② 藤原 聖佳	188
③ 坂本 就馬	192
④ 水野 耕佑	170
⑤ 菅野 直人	175
⑥ 安里 秀策	238
⑦ 堀 祐樹	216
⑧ 川添 奨太	278

○囲み数字は決勝進出順位

優勝 川添奨太

準優勝 坂本就馬

<優勝決定戦>

坂本 就馬	9	19	38	57	77	107	137	167	196	218	236
川添 奨太	9	19	37	57	77	112	147	177	205	225	245

この日、予選8Gで絶好調だったのは、姉の水谷若菜（J PBA）。219アベで他の追従を許さなかった。しかしコンディションが変わってきた準決勝からサソリが毒を撒く。好調だった若菜が敗退。代わりに

ベスト8に残ったのは、準決勝4G1位の谷合貴志以下8名。そのなかで好調の川添と若干16歳、坂本就馬がしぶとく勝ち上がった。 「まさかこんなに早く、ひと回り以下の選手と優勝決定戦をやると思わなかった」と29歳の川添。 決勝戦は静かなスタートになった。3フレまで互いにスベア。4フレで川添が最初のストライクを放ち、その後9フレまで続ける。 一方の坂本も負けてはいない。4フレこそスベアだが、5フレからストライクを決め、9フレまで1マー

クのまま食い下がる。川添の10フレ1投目。ここでストライクを出せば優勝に近づくが、②①残りの8本カウント。その後スベア、ストライクの245で終了。坂本に大きなチャンスが回ってきた。 この日、準決勝2回戦まで勝ち進んだ姉の坂本かや（J PBA）が祈るように見つめる。ストライクで優勝が決まる渾身の一投はポケットに吸い込まれたが、わずかに10ピンをかすめ9本カウント。王者を最後まで苦しめた16歳に、場内から大きな拍手が贈られた。 川添が通算231アベと群を抜いたが、



準優勝 坂本就馬

ウィメンズ・スコープオンオープン（第8戦） 予選通過ライン28人中を辛うじて26位で通過した水谷秋穂（JBC）。よもや優勝決定戦まで勝ち上がるとは誰が予想しただろうか。



ウィメンズは水谷秋穂が金星



準優勝 武部公英  
セミファイナルはビッグゲームを放つも、水谷の11連発には成す術がなかった



武部公英、間根直子といった経験豊富なベテランを破ってリージョナル初優勝の水谷秋穂三腕を借りるつもりでいた優勝は自信になりすぎず

スコープオン（42フィート）は水谷秋穂と川添奨太が優勝した。23日のウィメンズには61名、24日オープンには194名が参加。特にオープンには、一時ウェイトンが150名を超すなど異常な人気となった。

この日、予選8Gで絶好調だったのは、姉の水谷若菜（J PBA）。219アベで他の追従を許さなかった。しかしコンディションが変わってきた準決勝からサソリが毒を撒く。好調だった若菜が敗退。代わりに

妹・秋穂が、ベスト8に残った関根直子（J PBA）やリージョナル決勝トーナメント常連の新畑加奈（JBC）、笹木郁枝（JBC）など強豪を撃破した。 一方のゾーンでは、終始安定した

ここに若干16歳のリージョナルスターが誕生した。前半は姉、後半は妹と、水谷姉妹の活躍が光ったウィメンズ・スコープオンだった。

準優勝の坂本は、予選Bシフト通過ラインギリギリの14位。そこから決勝まで勝ち上がるマッチゲームの集中力は称賛に値する。 今年のスコープオンは、ウィメンズ水谷秋穂の優勝、オープン坂本就馬の準優勝と16歳の活躍が目を見張った。

投球の武部公英（JBC）が、チーター優勝の秋吉夕紀（PBA）やウルフ優勝の松岡美穂子（J PBA）、昨年スコープオン準優勝の安里紗希（JBC）を破って勝ち上がった。 決勝はオイルされた真つさらなレーン。準決勝から決勝トーナメントまで6Gを220アベで勝ち上がってきた武部が有利と思えた。しかし、1フレ2番ピンへのミスで武部のリズムが狂う。一方の水谷秋穂は1フレこそ8本スベアだがその後、怒涛のストライクラッシュ、終わってみれば290のスコアをたたき出した。 武部はダブル2回など抵抗を見せるが最後は水谷のラッシュに苦笑いするしかなかった。

**RESULTS**

【女子】

① 新畑 加奈	177
② 関根 直子	183
③ 水谷 秋穂	189
④ 笹木 郁枝	171
⑤ 武部 公英	202
⑥ 松岡 美穂子	170
⑦ 秋吉 夕紀	149
⑧ 安里 紗希	212

○囲み数字は決勝進出順位

優勝 水谷秋穂

<優勝決定戦>

水谷 秋穂	9	20	50	80	110	140	170	200	230	260	290
武部 公英	9	21	51	81	111	141	171	201	231	261	291



シャーク(45フィート)はJPBAの藤井信人が優勝した。6位で決勝トーナメントに進出し、優勝決定戦に勝ち進むと、宮澤拓哉(JBC)を209-158で撃破。2度目のリージョナル制覇となった。

# 藤井信人がリージョナル通算2勝目!!

**RESULTS**  
 [決勝トーナメント]

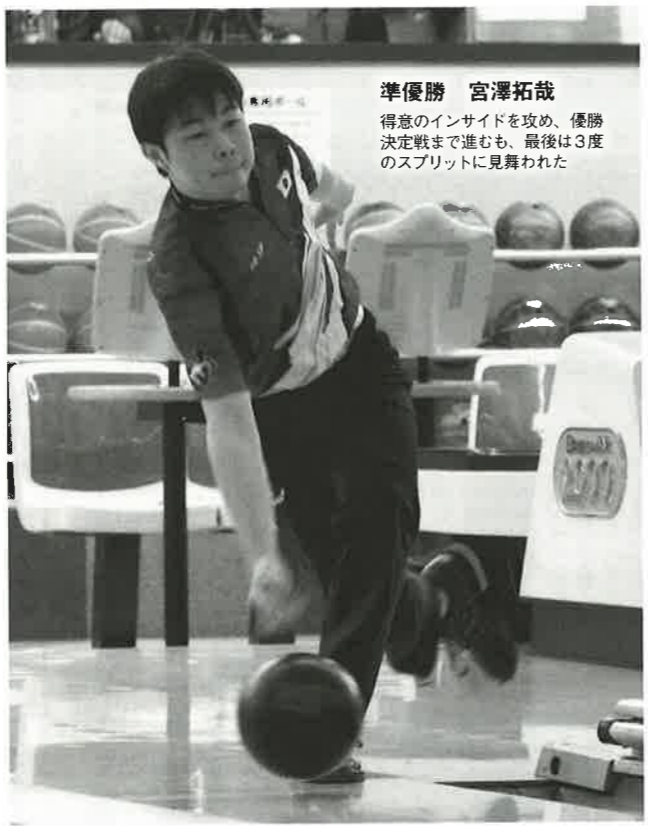
① 宮澤 拓哉	208	204	158	優勝 藤井信人
⑥ 谷合 貴志	202	193	209	
④ 野田 正樹	212	234	233	
⑤ 吉田 文啓	243	237	213	
③ 高坂 麻衣	171	239		
⑥ 藤井 信人	239	237	213	
② 小原 照之	237	213		
⑦ 齊藤 祐太	213			

○囲み数字は通過順位

<優勝決定戦>

藤井 信人	9	11	9	9	8	8	8	8	10
宮澤 拓哉	20	40	60	79	89	119	139	159	179
宮澤 拓哉	16	26	40	75	95	114	131	140	149

シャーク・オープン優勝・藤井信人  
 「宮澤選手は強い相手を倒してきたので、挑戦者の気分だった。奥さん(浅田梨奈=JPBA)の目の前では2位ばかりだったので、初めて優勝を見せてくれて良かった」



準優勝 宮澤拓哉  
 得意のインサイドを攻め、優勝決定戦まで進むも、最後は3度のスプリットに見舞われた

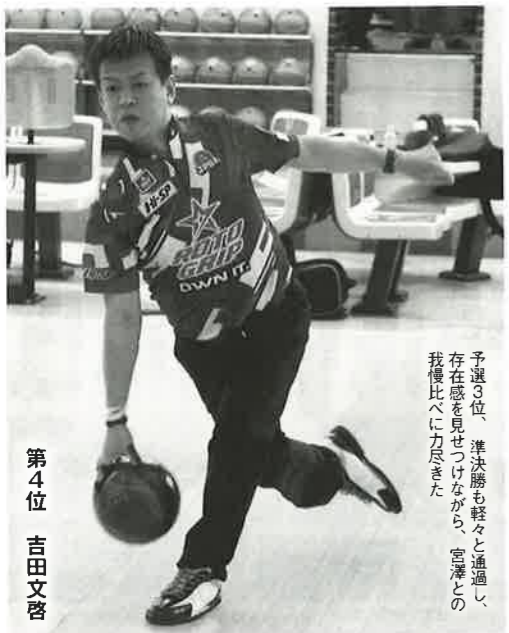
決勝はリオイルされた真つさらなレーン。両者1フレはストライクと好発進。しかし、宮澤の2フレは厚めに刺さってオープンとしてしまい、シャークが牙をむき始める。それでも、その直後にダブルを持ってきてカウント差を並んだ。

藤井は、ダブルが出ず、我慢我慢の投球で、7フレまでしびれる展開。運命の8フレ、宮澤の一投は、外へ抜けて②-⑧-⑩のスプリット。そして、なんと9フレも⑦-⑩で万事休す。

結果だけ見れば大きくスコア差の付いた試合だったが、女人好みの試合展開だった。209-158で宮澤を下した藤井がトロフィーを高く掲げ、PBAリージョナル2勝目をアピール



準決勝1・2回戦では247アベを放っていたが、藤井とのセミファイナルでは1ピン差の争いに屈した



予選3位、準決勝も軽々と通過し、存在感を見せつけながら、宮澤との我慢比べに力尽きた



シャーク・オープン決勝トーナメント進出8名

第3位 小原照之

第4位 吉田文啓

186名が参加したシャーク・オープン、埼玉・PBAフジボウルで開催された。大会名に冠されている「シャーク」は、PBA公認アニマルオイルパターンの一つで、深海を泳ぐサメをイメージしたことから、ディープインサイドの投球とコントロールが必要になる。

インサイドを攻めながらも出し過ぎれば曲がらない。内ミスは曲がり過ぎるといった過酷な環境で、正確かつ迅速なレーンリーディングとアジャスティングが試される結果となった。

予選から決勝トーナメントまで常に上位で勝機を伺い、勝ち上がってきた藤井信人(JPBA)は、1GMATCHのトーナメントでさらに強い姿を見せる。

ベスト8が出そろった1回戦では高坂麻衣(PBA)、準決勝では小原照之(JPBA)といった難敵を次々と撃破し、優勝決勝戦に勝ち進んだ。

一方のゾーンを勝ち残ったのは、準決勝から徐々に調子を上げ、250アベの1位で決勝トーナメントに進んだアマチュアの雄、宮澤拓哉(JBC)。失投すれば抜ける・刺さる難易度の高いラインをくぐり抜け、強豪JPBAの谷合貴志、吉田文啓をも破ってきた。

惜しくも2位の宮澤は、全ゲームでアベレージ231と好調だっただけに決勝レーンでのローゲームの投球が非常に悔やまれる。

藤井は「今回は挑戦する気持ちで、1試合1試合大事に投げたのが良かったと思います。予選でボールのイメージが湧かず、困っていましたが、5・6年前のボールを持ち出して使ったら良かったので、そのボールを主に投げました」と、最後まで落ち着いた投球で負けないプロの力を見せつけた。



# 寺尾杯争奪 第45回全国実業団支部対抗選手権大会

●3月2～3日/愛知・稲沢グランドボウル

寺尾杯争奪 第45回全国実業団支部対抗選手権大会は112チーム560名の参加で開催。東京支部の3連覇を阻もうと全国から腕自慢のボウラーが一堂に会した。



## 名古屋支部悲願の初優勝



名古屋支部A・田中清鷹



名古屋支部A・柴田和吉



名古屋支部A・伊藤宗一郎



名古屋支部A・松崎清雅



名古屋支部A・登川一真

開始直後から連続ストライクが続き、1G目で牧田直之(鎌ヶ谷支部)がパーフェクトをマークするなどハイスコア決戦の様相。その通り1回戦(3G)だけでパーフェクトが2つ、800シリーズが3つ記録された。トップに立った地元の名古屋支部Aのアベレージは242だった。

2回戦は、レインコンディションの変化に伴い、スコアもやや落ち着いたが、翌日の3回戦では再び激しい打ち合いに。パーフェクトが3つ、800シリーズが1つ記録された。予選9G終了時点での首位は名古屋支部Aで、3G3663点は大会新記録。2位には3連覇に挑む東京支部Aがつけたが、1位とは350ピンもの差があった。

決勝戦でも、名古屋支部Aが順調にスコアを伸ばすなか、東京支部Aが1G目で4位へ後退。しかし、名古屋支部Aも2G目はマイナス。1200を打った東京支部Aが再び160ピンまで差を詰めた。迎えた最終ゲーム。ここで東京支部Aがディフェンディングチャンピオンの意地を見せ、100ピンあまり追い上げる。しかし、惜しくも58ピン届かず、名古屋支部Aがトップを死守した。

かつて、予選を1位通過しながら決勝で逆転され「地元チームは勝てない」というジンクスをつくつて

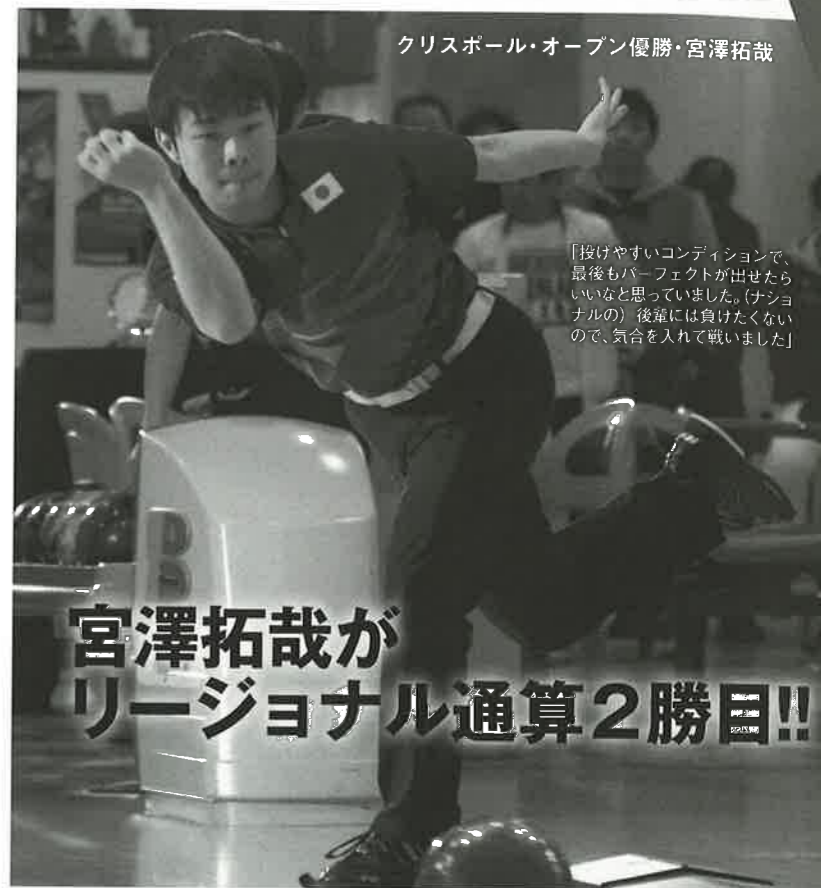
ただだけに、うれしい初優勝。名古屋支部Fも6位入賞を果たすなど、名古屋の活躍が目立った大会となった。

▼支部対抗選手権大会の入賞者



# アイキョーホームカップ PBAクリスポール・オープン(第11戦)

3月2～3日/千葉・アイキョーボウル



クリスポール・オープン優勝・宮澤拓哉

「投げやすいコンディションで、最後までパーフェクトが出せたらいいなと思っていました。(ナショナルの)後輩には負けたくないんで、気合を入れて戦いました」

## 宮澤拓哉がリージョナル通算2勝目!!

132名が参加したクリスポール(42フィート)はJBCナショナルチームの宮澤拓哉が優勝した。ファイナルでは畑秀明(JBC)を266-193で破り、前回のシャークで準優勝に泣いた雪辱を果たした。



準優勝 畑秀明



▲クリスポール・オープンベスト3。左から2位・畑・優勝・宮澤、3位・斎藤祐太

◀末席から凄まじいスコアメイクで勝ち上がったが、最後は宮澤の9連発に成す術がなかった

PBAのなかでもハウスコンディションに近いクリスポール。予選通過ラインの22位は25アベ(Ｂシフト)と一度の失敗も取り戻せない展開になった。宮澤拓哉(JBC)は2度のパーフェクトを含む、驚異の268アベで予選のトップ通過を果たす。決勝シュートアウトまでトップを譲らず、優勝決定戦は8位から勝ち

上がった畑秀明(JBC)とのナショナルチーム決勝となった。ここまで決勝3試合を、10フレ勝負の乱打戦で勝ち上がった畑だが、2連続スベアスタートと静かな立ち上がり。一方の宮澤は、ターキースタートを決める。初めて追う展開になった畑は微妙にアジャストを行うが吉と

快調にストライクをつなげる宮澤に対し、畑については6フレビッグフォーで、早くも勝負が決まった。ポーカーフェイスの宮澤は9フレまでストライクを続け、場内は今大会自身3回目のパーフェクトの期待が高まった。期待の10投目はまさかの⑦⑩スプリットで、266でのフィニッシュではあったが、見事に完全優勝を成し遂げた。

RESULTS	
【決勝シュートアウト】	
① 宮澤 拓哉	266
② 斎藤 祐太	257
③ 堤 祐樹	236
④ 鶴見 亮剛	198
⑤ 比嘉 有史	264
⑥ 井口 遼太	204
⑦ 斎藤 拓哉	224
⑧ 畑 秀明	276

※丸囲み数字は通過順位

<優勝決定戦>										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
宮澤 拓哉	30	60	90	120	150	180	210	238	267	266
畑 秀明	19	39	59	79	97	105	125	154	174	193

# メンタルで 勝つ方法

中谷彰宏

なかに・あきひろ  
●1959年、大阪府生まれ。  
著書に『理不尽』が多い人  
ほど、強くなる。『中谷彰  
宏』など。毎月、『中谷彰  
宏』セミナーを開催中。詳しい  
スケジュールは、公式HPで。  
<http://www.an-web.com/>

「緊張したとき、深呼吸は効果が  
あるのですか」と聞かれました。

「試合前にアガったら、深呼吸が効  
果的です。」

ミスした後や、この一番のスペア  
を取らなければならないときなどに  
も、効果的です。」

深呼吸は、おまじないではなく、  
心も体も、安心するのです。」

緊張状態になると、体が非常停止  
装置のプロップをかけます。」

いつも通りのなめらかな動きがで  
きなくなるのです。」

昔から言われている深呼吸は、医  
学的にも、効果があるのです。」

ただし、ここからが問題です。」

効果があるのは、正しい深呼吸の  
仕方をしたときのみです。」

プロの試合を見ていても、深呼吸  
をしている場面をよく見かけます。」

残念なことに、間違った深呼吸を

## 吐くことから深呼吸をするよ、 落ち着ける。

している選手は、少なくありません。  
試しに、深呼吸をしてみてください。  
正しい深呼吸には、4つのポイント  
があります。

### 正しい深呼吸

#### 1 吐いてから、吸う

ほとんどの日本人が、プロ選手も  
含めて、吸ってから、吐いています。  
横隔膜のメカニズムとしては、吐  
くことで、吸えるのです。」

意識は、吐くことにあるのです。  
きちんと吐くことができれば、吸  
うことも無意識にできます。」

逆に、どんなに頑張っても、吸おう  
としても、吐いていなければ、小さ  
な呼吸になってしまいます。」

日本の学校の体操が、「吸って・吐  
いて」の順番で教えていたことで、  
習慣付いてしまっているのです。」

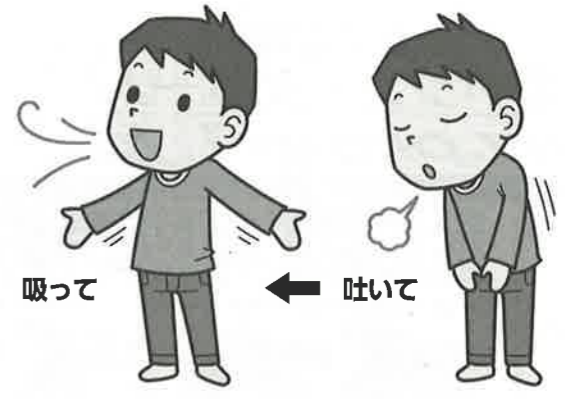
外国人は、深呼吸してくださいとい  
うと、スポーツ選手でなくても、  
吐くことからスタートします。」

空手の息吹は、息を吐き出す動き  
なので、理にかなっています。」

#### 2 止まらず、ゆっくり

多くの間違った深呼吸は、速過ぎ  
ます。」

これでは、余計、交感神経が高ぶっ  
てしまいます。」



興奮したときは、速い呼吸をす  
ると、効果的です。」

ヒクソン・グレイシーに代表され  
る格闘系や瞬発力を要するアスリー  
トが、活用しています。」

ボウリングは、副交感神経優位で、  
リラックスした方が、パフォーマンス  
が上がります。」

ゆっくりしてくださいというた  
頑張って、止めている人も見掛けます。  
ゆっくりと、止めるは、別物です。  
止めずに、ゆっくりするのが大切  
です。」

#### 3 3回続けて、する

1回では、心と体は、まだ安心し  
てくれません。」

3回続けることで、やっと安心し  
てくれるのです。」

間違った深呼吸をすると、すれば  
するほど、呼吸が浅くなって、体が  
固くなってしまいます。」

#### 4 吸ったときにお腹が膨らんで、 吐いたときにお腹が凹む

多くの人が、逆の状態になってい  
ます。」

寝転がって、お腹の上に本を載せ  
てみると、上下で分かります。」

呼吸は、教わらずにできます。」

ところが、正しい深呼吸は教わら  
ないと、できません。」

教わらないでできることほど、教  
わらなければならないのです。」

呼吸は、1分間に15回。1日に  
2万回しています。」

正しい呼吸にすることで、寝てい  
る間も、正しい呼吸になります。」

正しい呼吸をすると、脂肪燃焼効  
果(やせる効果) もあります。」

試合の緊張するときだけではなく  
て、普段から、呼吸の仕方を正しく  
することで、メンタルが安定します。」

\*明日のために、その140  
正しい呼吸の仕方を練習しよう。

# 悲願の「YES!!」 ジェyson・ベルモンテが 通算22勝目



## DHCカップPBAジャパンインビテーショナル2019

4月26～28日 東京・東京ポートボウル

PBA公式戦、DHCカップPBA ジャパンインビテーショナル2019は、  
東京・東京ポートボウルで行われ、  
人気、実力ナンバーワンの両手投げ、ジェyson・ベルモンテが優勝した。  
RRは最下位から発進するも、3位でファイナルに進出したベルモンテは、  
クリス・バーズ、宮澤拓哉を圧倒。  
優勝決定戦はジェイコブ・バターフを224-213で破り、  
日本での初タイトルとなる通算22勝目を獲得した。

「(日本で勝つまで約15年と)長かったが、待  
っていた甲斐があった」と通算22勝目を喜ぶ  
ジェyson・ベルモンテ

文 正田晃也 写真 馬場高志

RESULTS

② ジェイコバターフ 213  
③ 宮澤 拓哉 189  
① ジェイソン・ベルモンテ 245  
⑤ ドム・パレット 222  
④ クリス・バーンズ 253

優勝  
ベルモンテ  
ジェイソン

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ジェイソン	X	9	10	9	8	8	8	8	9	16
ベルモンテ	20	32	50	70	89	129	158	178	198	224
ジェイコバ	X	13	X	8	8	X	9	9	X	19
バターフ	15	23	55	76	96	125	145	164	184	213



▲(左から)ベルモンテ、バターフ、宮澤、バーンズ、パレットの決勝進出者。「初日から多くのお客さんで埋め尽くされてうれしい」とベルモンテ

りにビッグゲームを量産。瞬く間に決勝進出ラインまで浮上し、3位でファイナルに駒を進めた。日本人選手はナショナルチームキャプテンの佐々木智之らが奮闘したが、同じくナショナルチームの宮澤拓哉が24アベを放ち、11勝4敗の2位でファイナルに進出する大健闘を見た。

そんな宮澤、ベルモンテをはるかに上回るスコアで、ラウンド1から首位を独走したのは、3月のUSBCマスターズで悲願の初メジャータイトルを獲得したジェイコブ・バターフ(アメリカ)だった。独特のグリップとステップでワレタンボールを操るレフティ。試合前半でジェイコブが首位に立てば、そのまま彼がトップシードになる」とPBAメンバークラスが評する通り、終始

▶ロングコンディションが得意の宮澤拓哉が日本人最上位の3位。練習ボールから1Gしか投げていないのに、かなりレーン変化を感じました。最後はまともなボールが投げられなかったが、最初は攻め方を間違えました。3位は奇跡です」

▶初代王者のクリス・バーンズが好相性の東京ポルトボールで再躍の4位。「2015年に昔中の手術をして、ここ数年は苦しみました。チームUSAは引退するが、また日本で呼んでもらえるように活躍していきたい」



▼ディフェンディングチャンピオンのドム・パレットが5位。高度な技術と対応能力で3度目のファイナル進出となったが、バーンズのビッグゲームの前に敗れ、史上初の連覇はならず



つ優勝決定戦へと進んだ。今シーズンのメジャータイトル対決となった最終ゲーム。ベルモンテはディーピンサイドからボールを7枚付近まで膨らませ、バターフは、徹底的に左のアウトサイドを剛球で押し込む。6フレまで同マークで進み、特設セットで飾られた19・20番レーンを見つめるギャラリーにも緊張感が走った。

にわたってその爆発力を見せつけ、日本のファンを沸かせた。最終ステージは5名によるステットブラダー。まず、ドム・パレット(イギリス)とクリス・バーンズ(アメリカ)の歴代優勝者同士の5位決定戦は、途中の6連発でリードを奪ったバーンズが逃げ切る。ベルモンテは4位決定戦から登場し、終盤のフォースでバーンズを退けると3位決定戦では2フロアから苦しむ宮澤を、27-189でかわし、バターフが待つ優勝決定戦へと進んだ。



「日本の試合に参加して15年ほどだが、やっと勝つことができてうれしい。ジェイコブも素晴らしいボーリングをしていたので、今後は彼にも日本で勝つチャンスがあるだろう」PBA最強ボウラーは、トーナメントリーダーを張り続けた敗者を称えながらも、悲願の日本初Vに酔いした。

8フレ。バターフがここまで飛ばし続けた7番ピンがついにタップ。対してベルモンテは、スピードをさらに抑えてターキーとし、ついにゲームが動いた。1マークリードに加え、カウント差でも優位に立ったベルモンテ。バターフが213で終了し、大きなミス以外で勝利が確定する10フレ1投目でストライク、そして2投目も完璧なポケットヒットで10本を払い、ガッツポーズとともに「YES!!」と勝利の雄叫びを上げた。



▲PRから任憑のボウリングを見たベルモンテ。ボックスごとに違って感じるのが東京ポルトボール。今朝、タイム(マック)左が新たに用意してくれた。スムーズに走るボールのおかげで、朝から決勝までもとてもいいボウリングができました。優勝ボールはSTORM ハイロード(ハイ・スポーツ)社

PBAのトップ14とジャパンリージョナルツアーポイントランキング上位者、そして選抜大会を勝ち抜いた精鋭ら48名による2日間のロングゲーム。ボールの表面加工やスピードの緩急など、各選手がPBAアニマルパターンの最高難度を誇るドラゴンと対峙し、上位陣は昨年を上回るペースでスコアを積み重ねた。今年、史上最多となる11度目のメジャータイトルを獲得した、世界一のツアーハンター、ジェイソン・ベルモンテ(オーストラリア)は、今大会も優勝候補の大本命として参戦。しかし、これまで日本ではタイトルに縁遠く、今回も12ゲームトータルピンで16名に絞られるラウンド1での敗退が危ぶまれたが、16位の末席に踏みとどまり、次ステージへ向かった。ラウンド2は予選のスコアを持ち越してのラウンドロビン。しんがりから上位を追うべく、一つの策を講じる。「(コーチの)ティム・マックの案で、この日の朝にレーンの相性と合ったボールを一つつくってみた」新たな相棒を手にしたベルモンテは、スピードを24km前後に制御し、299を皮切

PBAインビテーショナル ついにベルモが優勝

# BOWLING

Magazine  
ボウリング・マガジン

定価 890円  
ベースボール・マガジン社  
<http://www.bbm-japan.com>

2019  
July  
7

佐藤まさみ  
(JPBA女子42期)

P★LEAGUERから  
韓流スターまで 合格者紹介  
第58回男子・第52回女子  
プロボウラー  
資格取得テスト

トーナメントグラフ  
JPBA グリコセブンティーンアイス杯  
JBP DHCカップ PBAインビテーショナル  
JBC NHK杯 全日本選抜選手権大会  
NBF 東日本・西日本選手権大会

THE PROFESSIONAL FORM  
佐藤まさみ



P★STYLE  
伊藤 愛

令和元年6月12日発行・発売(毎月12日発行・発売) 第37巻 第7号 通算433号  
昭和58年9月19日創刊(毎月12日発行・発売) 第1号 通算1号

P★LEAGUE 第13シーズン選手名鑑

# BOWLING

Magazine  
ボウリング・マガジン

【新連載】  
検証 USBCドリル新ルール  
スタティックバランス3oz変更は  
ボールリアクションに影響を与えるか

特別定価 940円  
ベースボール・マガジン社  
<http://www.bbm-japan.com>

THE PROFESSIONAL FORM  
中野麻理子

2019  
May  
5



中野麻理子  
(JPBA女子45期)

関西オープン男子  
藤井信人が2連覇!  
(JPBA52期)

ボール  
リアクション  
ガイド  
春  
Bowling  
Promo  
2019



P★TALK  
鈴木理沙

トーナメントグラフ  
JBC 第57回全日本選手権大会  
ABBF第45回全国実業団支部対抗選手権大会

平成31年4月12日発行・発売(毎月12日発行・発売) 第37巻 第5号 通算431号  
昭和58年9月19日創刊(毎月12日発行・発売) 第1号 通算1号